

令和5年度英真学園高等学校 学校評価

1. めざす学校像

建学の精神

誠実・勤勉を心がけ、豊かな教養とより深い人間性の育成を目指す

- * 個性や違いを認めて支えあう学園
- * 他人を思いやる心豊かな学園
- * 毎日を肯定的に受け止め、創造力豊かな学園

2. 中期的目標

アジアで活躍する人材の育成

アジアの人々とともに豊かで平和な未来を築く創り手の育成をめざし、生徒とともに教職員も切磋琢磨する学校

1. アジア諸国に興味・関心を持つ

多様な文化・言語に触れ、グローバルな視点で物事を捉える力を養う

2. 情報発信能力を高め、協働的問題解決をはかる力を養う

自らの意見を表現・発信する力、多様な意見を聴き理解する力を養う

3. アジアの中の日本

公共心や規範意識、人権への鋭い感受性と他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力を養う

4. 主体的・対話的で深い学びの探究

学びへの興味と努力し続ける意志を喚起し、その指導方法を不断に見直し改善する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和6年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>学校評価(自己評価)</p> <p>教職員 調査対象 専任教員・専任事務職員</p> <p>調査方法 4段階評価</p> <p>A：よくあてはまる B：ややあてはまる</p> <p>C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない</p> <p>調査項目の分析</p> <p>目指す学校像および中期的目標に、年度当初の方針会議において校長や各部から提議された重点的な取り組み(重点目標)、さらに昨年度より『観点別評価について』と『教職員に対する人権研修について』の2項目を加えて34項目において学校評価(自己評価)を行った。</p> <p>昨年度と同様、34項目中31項目が肯定的(A、Bをあわせたもの)な評価結果となった。しかし、昨年度5項目あった肯定的な評価が90%を超える項目が今年度はなかった。毎年教職員が自ら求めるレベルが上がってきているためだと考えられる。特に、『教室の美化を遂行』、『公共の場においてマナー・ルールを守らせる指導はできたか』、『観点別評価について』、『教員向けの人権研修について』、『進路に対する意識発掘、また進路先で不本意な退学や離職をさせないための指導について』の5項目については80%を超える肯定的な自己評価を得た。</p> <p>昨年度より、『生徒が達成感を持つことができる授業』、『生徒が積極的に意見を出し合えるような授業』を目指してきたが、今年度も80%程度の肯定的な自己評価を得た。また、生徒アンケートでは『各授業やHRにおいて発言(発表)する機会があったか』という設問に対して60%の生徒が『発言できた』と答えている。</p> <p>一方、昨年度自己評価が低かった『アジアの書籍の利用の発信ができたか』の項目については、昨年度36%程度の肯定的な自己評価から20ポイント程度増加したものの、『自らアジア諸国について情報収集をすることができたか』の項目については、ほぼ横ばいとなった。</p>	<p>・34項目中31項目の設問について肯定的評価(①, ②)であることは、先生方の教育に対する真摯な姿勢を示すものとして高く評価したいと思います。</p> <p>・TVやネットで世界中の出来事が瞬時に知ることが出来る現状では、アジア諸国にこだわる必要はないと考えます。日本の独自の歴史・文化・芸術・技術・価値観等に対する理解を深めて世界に誇る日本の政治的・文化的な立場に興味を持ってもらいたいと思います。(設問5～7)</p> <p>・多様な意見を聞き理解する力(設問8)、自ら意見を言い発信する力(設問9)を養うことは、生徒たちにとって極めて重要なので、肯定的評価が昨年度より増加しているのはいいことだと思う。</p> <p>・少子化から新入生の定員割れが続き、学校の財務状態が悪化している状況に対し理解が低い点につき、厳しく認識してもらう必要がある。(設問30)</p>

学校関係者評価

外部代表として外部理事・幹事，同窓会役員およびP T A役員の方から，学校の状況について意見をいただいた。

- ・先生と生徒の距離が近く，一人一人の子供に寄り添い，丁寧に対応してくれていたのが良かったです。
- ・学校を訪れたとき，生徒達の対応がとてもさわやかで礼儀正しく，気持ちがいいです。
- ・生徒達に様々な教材を通じ「自分自身を知る」「社会を知る」きっかけをいろいろ指導されている。
- ・生徒の育成・指導面において，いろいろと工夫され，生徒に寄り添い，素晴らしい学習環境，不安のない学校生活環境に日々努力されていると思います。
- ・大変厳しい経営・財務状況だと存じますが，今後各コース，募集形式等も変更を前向きに検討されていますので，良い方向に向いて毎年の生徒募集人数を確保出来ますよう祈っています。
- ・来年度からの新しいコースに期待しています。
- ・生徒達が学ぼうとする姿勢は，以前と比べ改善されてきたと思います。学園の雰囲気も落ち着いてきていると感じます。
- ・学校と生徒・保護者との連絡ツールとして活用している「BLEND」ですが，少しわかりにくいです。

3. 本年度取り組み内容および自己評価

中期的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評 価
1 アジア諸国に興味・関心を持つ	<p>多様な文化・言語に触れる</p> <p>(1) 各クラス・各教科において、アジア諸国の文化や言語に興味関心を待たせ、意識させる</p> <p>(2) 図書室では、教員や生徒がいつでも閲覧できるようにアジア諸国の書籍を揃えておく</p>	<p>(1) 教員は、自らもアジア諸国に興味を持ち、アジア諸国に関する知識を授業やHR活動で生徒に情報発信、生徒に興味関心を持たせる</p> <p>(2) 昨年度設置した「アジア諸国」のコーナーのさらなる充実</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) どれだけ情報収集できたか どれだけ生徒に情報発信できたか</p> <p>(2) アジア諸国に関する書籍の貸し出し数の増加</p> <p>■日々の学校生活において、アジアを意識できたか</p>	<p>70%の教員が、生徒に対して、興味関心を持たせる情報発信ができた。また、図書室の書籍の利用について発信できたという教員が、昨年度より20ポイント増加した。昨年度より生徒のリクエストが多かった韓国系の書籍の充実を図ったことで、貸出数の割合が15ポイント増加した。</p> <p>生徒アンケートを実施した結果、より意識できた生徒は20%と昨年と同程度であった。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 情報発信能力を高め、協働的問題解決を図る力を養う</p>	<p>生徒達自ら課題を設定し、独自の考えを見つけ出し、第三者にその成果を伝える力を養う</p> <p>(1) 多様な意見を聴き理解する力を養う (インプット)</p> <p>(2) 自らの意見を表現・発信する力を養う (アウトプット)</p>	<p>(1) 教員は、HR活動・行事・授業において、生徒達自らが考え、意見を出し合い、まとめる機会を設ける</p> <p>(2) 教員は、HR活動・行事・授業において、生徒がプレゼンテーションをする機会を設ける</p> <p>■生徒アンケートを実施する</p>	<p>(1) 生徒が積極的に意見を出し合えるような学習環境を作れたか</p> <p>(2) 生徒が積極的にプレゼンテーションする学習環境を作れたか</p> <p>■他人の意見を聴き理解できたか 自分の意見を発信できたか</p>	<p>76%の教員が、より生徒の意見等を出し合える環境作りができていると答え、77%の教員が、学習環境を作ることができたと答えた。ともに昨年度と比べて数ポイント減少したが、生徒アンケートを実施した結果、『積極的に発言ができた』『発言ができた』と感じている生徒は、64%と、昨年度より7ポイント増加した。</p>
---	---	--	---	---

<p>日本が世界から評価を受けている、「時間厳守」や「美化意識」、「災害時における物資授受等の規範意識」「思いやりの精神」について考えさせる</p> <p>1. 公共心や規範意識を高める</p> <p>(1) 欠席・遅刻をなくす</p> <p>(2) 美化活動の徹底</p> <p>(3) マナーを守る</p> <p>2. 人権への鋭い感受性と他者理解を尊重する</p> <p>(1) 外部講師を招いての人権 HR の実施</p> <p>(2) 弱者の立場を理解し、助け合いの精神を養う</p>	<p>(1) 毎月1回、「無遅刻週間」を設ける。生徒会のあいさつ運動の実施</p> <p>(2) 生徒会の美化委員会と協力して美化点検を行う</p> <p>(3) 教員による登下校指導 生徒会によるあいさつ運動 通学路でのマナー向上のため、地域の方との連携 被災地に対する支援活動</p> <p>2. 人権意識の育成と人権 HR 活動を通じて他者共生を図る</p> <p>(1) 各学年によりテーマを決めて、外部講師を招いての講演を聴く</p> <p>(2) 視覚障害者の講演を聴く車いす体験を実施</p>	<p>(1) 欠席・遅刻数において、前年比減を目指す</p> <p>(2) 机の整頓、ゴミ箱にゴミが残っていないか、黒板まわり等、チェック項目を設ける</p> <p>(3) 登下校時、電車内でのマナーを守れたか</p> <p>(1) 講演のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか</p> <p>(2) 体験のあと、フィードバックにより理解したことを定着させることができたか</p>	<p>67%の教員が、欠席や遅刻を減らす指導ができたと答えた。コロナの影響がなくなってきたとはいえ、生活リズムが崩れた生徒がまだまだ多くいると感じた。</p> <p>80%を超える教員が、教室の美化の徹底ができた。</p> <p>80%を超える教員が、ルール、マナーを守らせる指導ができた。</p> <p>講演後の振り返りで、理解したことを定着させる指導ができたと答えた教員は77%であった。また、生徒アンケートでも90%を超える生徒が、しっかり理解できたと答えた。</p>
---	---	---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 主体的・対話的で深い学びの探究</p>	<p>学びへの興味と努力をし続ける意志を養う</p> <p>各部・各学年等においてコミュニケーションを図り、組織的な指導力を高め、日々の学習活動において、『できた』達成感を共有・蓄積して、生徒と共に探究していく</p> <p>観点別評価について、新たな評価指標を確立する</p> <p>生徒が抱える様々な問題を理解し、援助していくために人権教育に積極的に取り組む</p>	<p>各教科で、ipad を活用した新たな授業の研究を行い、教科会議において授業研究を行う</p> <p>生徒との日々の学習活動において『できた』達成感を共有・蓄積して、その後のクラス運営や学校作りに役立てる</p> <p>各教科の評価の方法、考え方を再検討する</p> <p>学習障害、LGBTQ 等の教員向けの研修を積極的に行い、さらに理解を深める。</p>	<p>研究授業、教科での研修会議の回数</p> <p>いろいろな角度から生徒を評価し、単位認定をおこなう</p> <p>教員向けの研修の回数 人権教育推進委員会からの情報発信</p>	<p>昨年度は、学校主導でほぼ全員の教員が研究授業を実施した。今年度は、各教員が自主的に行った結果、レポート提出等がなかったためか、取り組みに対する自己評価は20ポイント程度減少した。しかし、教科の枠を超えた授業見学や教科会議での意見交換は出来ていたと感じる。</p> <p>生徒アンケートで、95%の生徒が授業等でipadを活用できたと答えた。</p> <p>77%の教員が、生徒が「できた」と達成感を持たせることができた。</p> <p>85%の教員が、観点別評価について新たな評価指標を確立し、単位認定を行うことができた。</p> <p>今年度も、昨年度同様3回の人権に関する職員研修を実施し、人権教育に積極的に取り組んだ。</p>
--	---	---	---	---

今後の目標

- ◆生徒が安心して学校生活を送れるように、学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の充実を図り、『入学生＝卒業生』、さらに全員の進路決定を目指し、教育活動を行っていく
- ◆生徒に建学の精神を身につけさせる教育の実践を行い、アジアで活躍できる人材の育成を目指す
- ◆規範意識を高め、人権を重んじる生徒の育成に取り組み、いじめのない楽しい学校生活を送れる環境づくりを進めていく
- ◆タブレット委員会と各教科が連携し、授業への活用等に積極的に取り組み、『わかる授業』『生徒が自ら学びたいと思う授業』の実現を目指す
- ◆昨年度より『支援委員会』を設置し、様々な問題を抱える生徒に対して支援を行ってきたが、常駐教員を置くなど、その支援体制をさらに充実させる
- ◆人権に関する教員研修を継続し、生徒が抱えている問題等を理解し、安心して学校生活を送れるように援助していく
- ◆昨年度より導入した校務システム『BLEND』について、日々の出欠・成績の管理、生徒・保護者との連絡ツール等に活用する
- ◆来年度よりコースを一新し、100周年に向けて生まれ変わる、新たな英真学園のスタートの年と位置づけ、新コースの魅力を発信するため、オープンスクールや体験会等の広報活動を積極的に行う